

# どーらく 改題 逆説土楽たより

断捨離考

7月号(NO22)通巻 172号

2020年7月10日(金)発行(毎月10日)

## 【農暦】鳥にも虫にも取り分があると思うが！

○コロナ禍の中、線状降水帯の豪雨が九州、中部を襲っている。“観測史以来”から“今だかつてない”降水量とニュースで繰り返している。気象庁は「令和2年7月豪雨」と名付けた。土砂を含んだ濁流は、橋を、道路を、家を破壊している。激しい濁流の映像は怖い。田畑の状態は容易に想像される。日本のあっちこっちで、毎年繰り返される。九州にも、岐阜にも、年賀状だけになっている友がいる。心配である。

○地球温暖化による海水温の上昇が風雨のエネルギーを巨大化して来ている。日本は不名誉な化石賞を続けて貰っている。石炭火力が問われている。やっと見直すという。エネルギー問題は難しいが、遅すぎる。何も出来ない自分が寂しくなる。世界にコロナ汚染の拡散が続く中、トランプ大統領がWHO脱退を言う。コロナも温暖化も地球的規模の危機である。批判し合っている状況ではない。相当危険なところに来ているように思えてならない。政治の貧困が目立つ。日本だけでないのが心配である。



＜ブルーベリー＞風雨と鳥に荒らされ、終盤に。9日撮影

○玉葱は不作だったが、ジャガイモも駄目だった。こんなことは初めてである。気の毒に思われたのか？菜園仲間のIさんが立派に育った玉葱とジャガイモを届けてくれた。嬉しかったが、少し寂しいものがある。ブルーベリーは剪定と管理の成果か、今年も、ご近所さんへ、お裾分けが出来た。嬉しい。茄子、胡瓜、ピーマンなどが採れ始めた。

○昨日(9日)、黒豆と小豆の発芽状況を確認に畑へ、黒豆は7割方を鳥にいたずらされ抜かれていた。小雨の中、蒔き直した。犯人？らしき鳥がキウイの枝の上からこちらの様子を窺っていた。声を上げて逃げようとしめない。急きょ、防鳥糸を張る。長さ不足で、つなぎ合わせなどし、中途半端なものになったが、対策した。ブルーベリーも風雨と鳥に荒らされていた。鳥にも虫にも取り分があると思うが、食べる訳でなく抜いて遊ぶのは腹が立つ。玉葱も同じことをされた。ネキリ虫は苗木の根本をハサミで切ったように食べる？。共存は難しいですね。(了)



＜薩摩、落花生など＞鳥に食われ、黒豆蒔き直し9日撮影

【楽農】＜畑＞黒豆、小豆を蒔く。草刈りなど。

ブルーベリー収穫、トマト、茄子、胡瓜、ピーマンなど初どり収穫。

【楽市】イベントなど；共生の会、川柳の会(2日)笠吟連会(8日)詩吟会は中止継。

**【つぶやき=Tweet】ひとり10万円。世帯主へ一括送金に絡んで！**

○今日（14日）の新聞に”わたしの10万円”の記事があり、世帯主へ一括送金に絡んで、家庭内で起こった、いろいろな問題についての内容であった。読みながら、世帯主制度はジェンダーフリーに反していると、戦前の家父長制的考えの遺物であると思った。笠間市の男女共同参画に関わっていたので、感じたこと少し述べる。

○コロナ対策一次給付金からみでDVや家族関係の微妙な関係が寄せられていた。給付金送金だけで、これだけ問題があるのである。男女共同参画社会は、まだまだ道半ばだと思っていたので、改めて再認識させられるものだった。ジェンダーフリーの活動は目先を変えるのではなく、もう少し腰を落ち着けて、継続して進むべきと改めて思った。国の男女共同参画は働き方改革とか、目先を変えただけで成果が出たような錯覚させるものだと、異を感じていたので、社会改革（制度と意識）として継続すべき改めて思った。



＜初どり＞茄子、胡瓜、ピーマン等、トマトは割れが。7日撮影

○給付金のスピードのことでは、監視社会化へ繋がると、不人気のマイナンバー制を、高市総務相などが、この時とばかりに、使えばと云う。困窮者が先でと、見出しにあったが、特にスピードが問われるのは経済的弱者である。母子家庭とか非課税者とかを優先すれば良いと思う。国民に寄り添う視点があれば直ぐ判ることである。国際的にも笑われているが、“安倍のマスク”も全く同じである。緊急に、必要な所（人）を優先すれば良いだけのことである。国民のためにやっているよと見せたいだけで、必要な人に必要な時に届かない。政策に心を感じられない。今の政治には信を感じられない。

○同じ日の新聞に、”「あるべきアメリカ」求める人々”の記事があった。トランプ大統領の言動を問題した内容であった。一部を引用すると、「アメリカは自由と平等の国、しかし黒人の自分にアメリカはアメリカであってくれない＜略＞多くの黒人は今も同じ苦悩を抱く、法的には平等を得ても実態は虐げられたままだ。だから、」とあった。日本のジェンダーフリーは、法的には男女平等になった。実態においては？が付く。世帯主制度など平等と言えないものが残っている。改革が問われる。

○歴史が教える処では、家父長制度（養子）で貧困から抜け出し活躍された人は意外に多い。この価値観に救われた私の生い立ちがある。価値観だけでなく、大事にされた。感謝している。今の世相の方が怖い。歴史には皮肉がある。この記事もだが、最近、政権に危機感を持った人がマスコミに増えているようだ。＜16日のメールの書直し版＞（了）

○断捨離考：少しずつだが継続。課題は多い。

**【後記】** コロナ禍、各所で豪雨、氾濫。人類へお仕置？ ボランティアには頭が下がる。

\*先号訂正；【誤】ホームステイ【正】ステイホーム

**【編集せずランダム構成】**

発行者；小暮虎雄

住所；笠間市本戸4201-10

携帯電話；090-9333-4135

HP；kogure農場

メール；[torao-k@nifty.com](mailto:torao-k@nifty.com)